

令和6年度札幌市若者意識調査 報告書

令和7年(2025年)3月
札幌市

目次

1 調査の概要

- (1) 目的
- (2) 調査対象と回答サンプル数
- (3) 調査手法
- (4) 調査期間

2 調査結果

- (1) 回答者属性(性別・年齢、居住地、婚姻状況・同居者、仕事)
- (2) 考え方について
- (3) ① 相談先の有無 ② 誰に相談するか
- (4) ① 家族以外の人とのつながり
② 家族以外の人とのつながり方
- (5) ① 居場所の有無 ② 居場所の種類
③ 居場所とは何か ※居場所の有無とつながりの有無の関係
- (6) ① 札幌市や行政機関への意見表明の有無と機会の有無
② 札幌市や行政機関への意見表明しやすい手段
- (7) 関心のある社会的課題(説明、グラフ)
- (8) 子どもや若者のために札幌市にしてほしい取組
- (9) 理想の札幌市の姿(説明、グラフ)

1 調査の概要

(1) 目的

令和5年4月施行のこども基本法では、国や地方公共団体は、こども施策の策定等に当たり、こども・若者や子育て当事者等の意見を反映させるための措置を講ずるものとされている。令和7年度から計画期間が開始となる次期さっぽろ子ども未来プランの策定に向け、若者の現状や意識を把握しプランに反映するため、本調査を実施。

(2) 調査対象と回答サンプル数:

- 18歳～39歳の男女
- 回答数:855件

(3) 調査手法:

- Grafferスマート申請を用いたオンラインによる調査
(札幌市公式LINEから登録者へ案内、子ども未来局Xへの投稿及び市公式Xでのリポスト、及び札幌市公式ホームページに掲載し周知を実施)

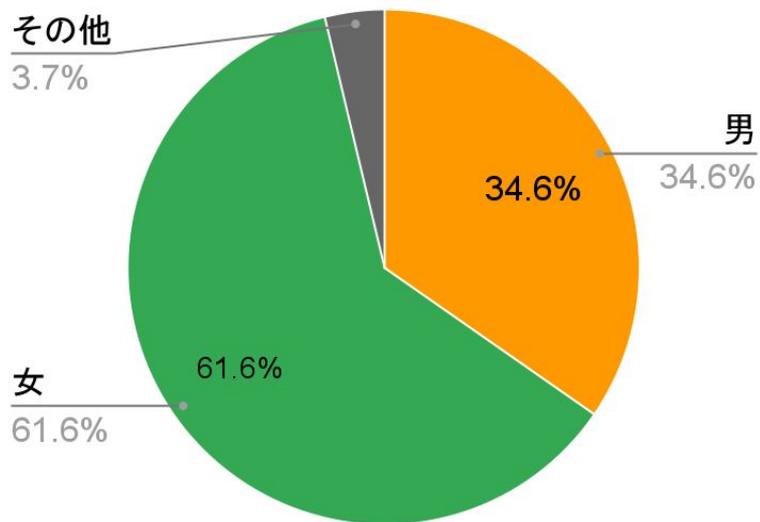
(4) 調査期間:

令和6年7月29日～令和6年8月31日

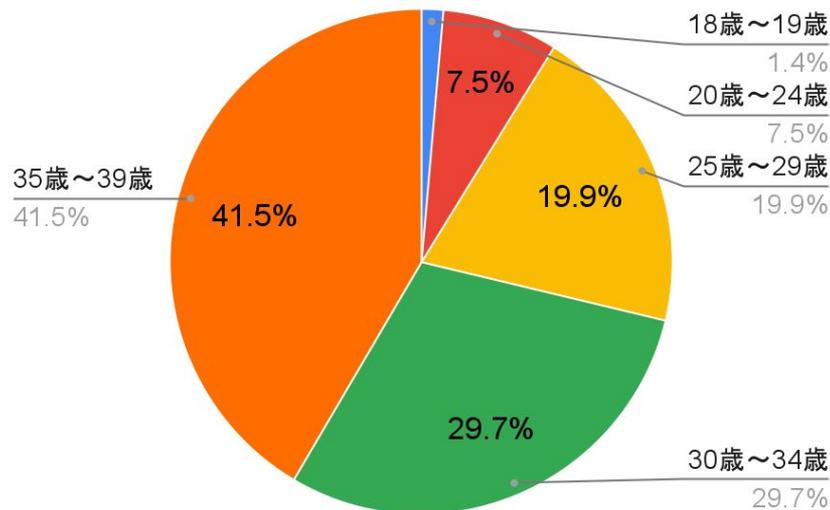
2 調査結果

(1) 回答者属性(性別・年齢)

● 性別



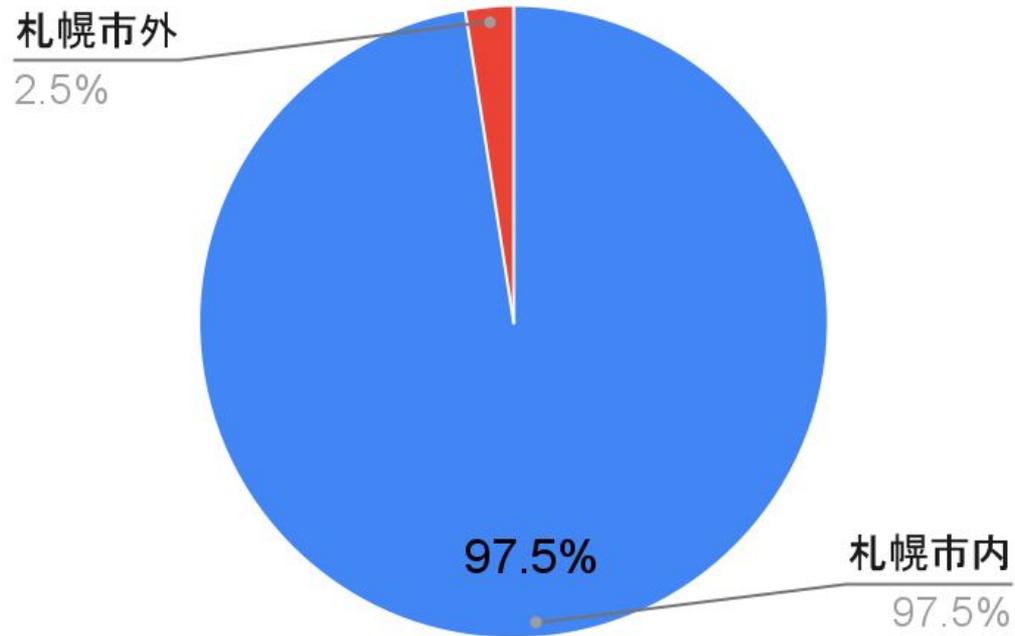
● 年齢



- 答えた方の性別は、女性が6割を占めている。また、年齢別にみると、35~39歳が41.5%と最も多く、次いで30~34歳が29.7%となっており、30代が71.2%となっている。

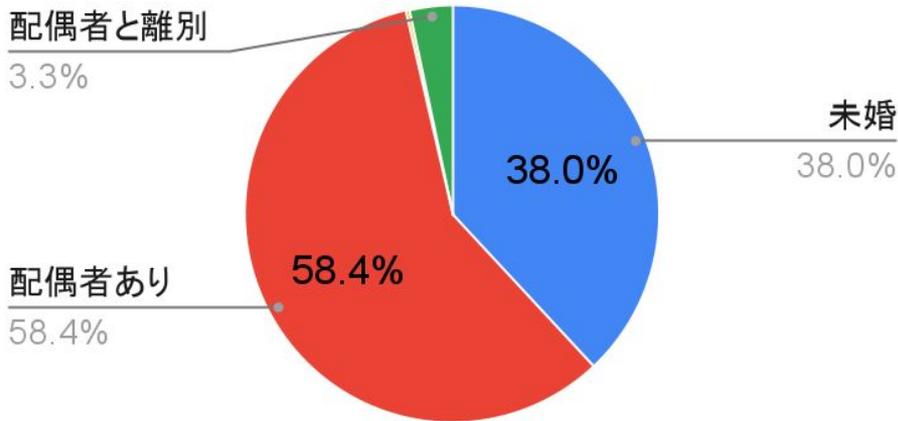
(1) 回答者属性(居住地)

- 居住地

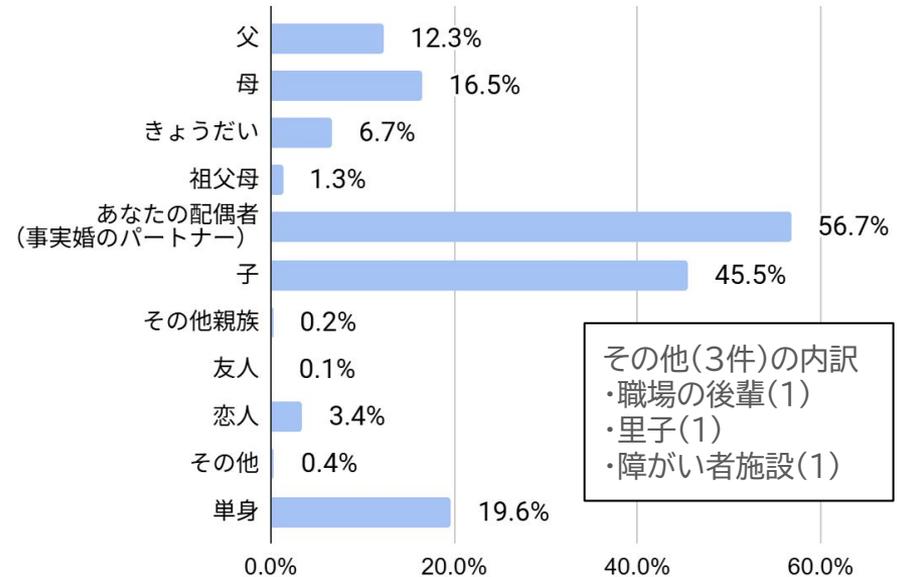


(1) 回答者属性(婚姻状況・同居者)

● 婚姻状況



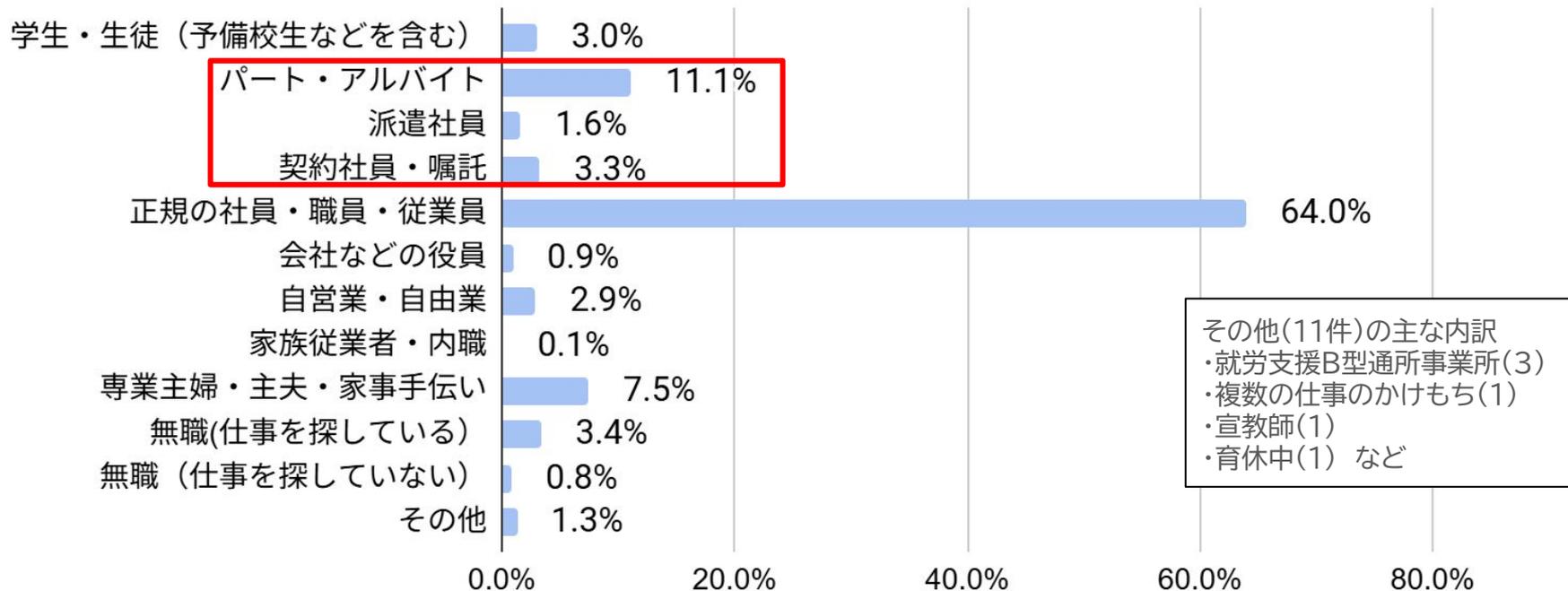
● 同居者(複数回答可)



- 婚姻状況は、配偶者ありが58.4%と最も多く、次いで未婚が38.0%と続いており、半数以上は配偶者がいることがわかった。
- それに伴い、同居者では配偶者(56.7%)や子(46.5%)の割合が高い。父母との同居も一定数見られる。

(1) 回答者属性(仕事)

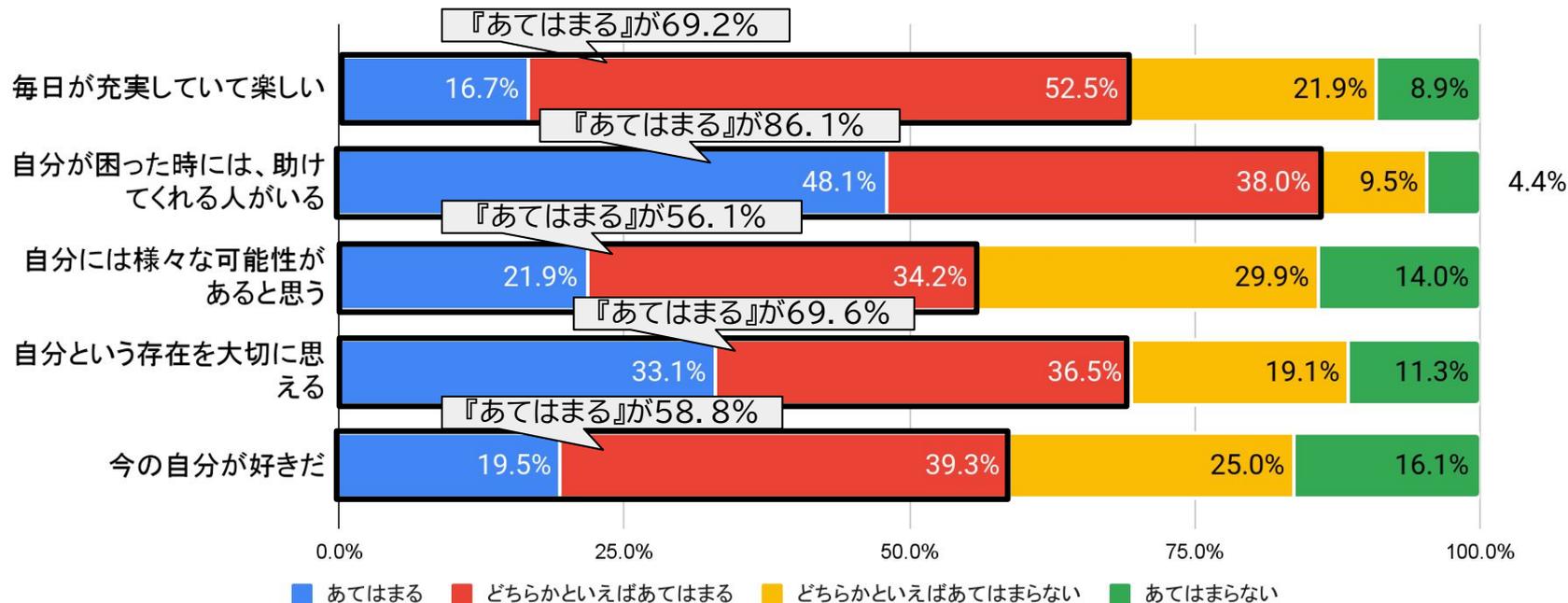
● 仕事の状況



- 正規雇用が64%と一番多い一方で、非正規雇用(パート・アルバイト、派遣社員、契約社員・嘱託)が16.0%と一定数みられる。また、求職中の答えた方も3.4%いる。

(2) 考え方について

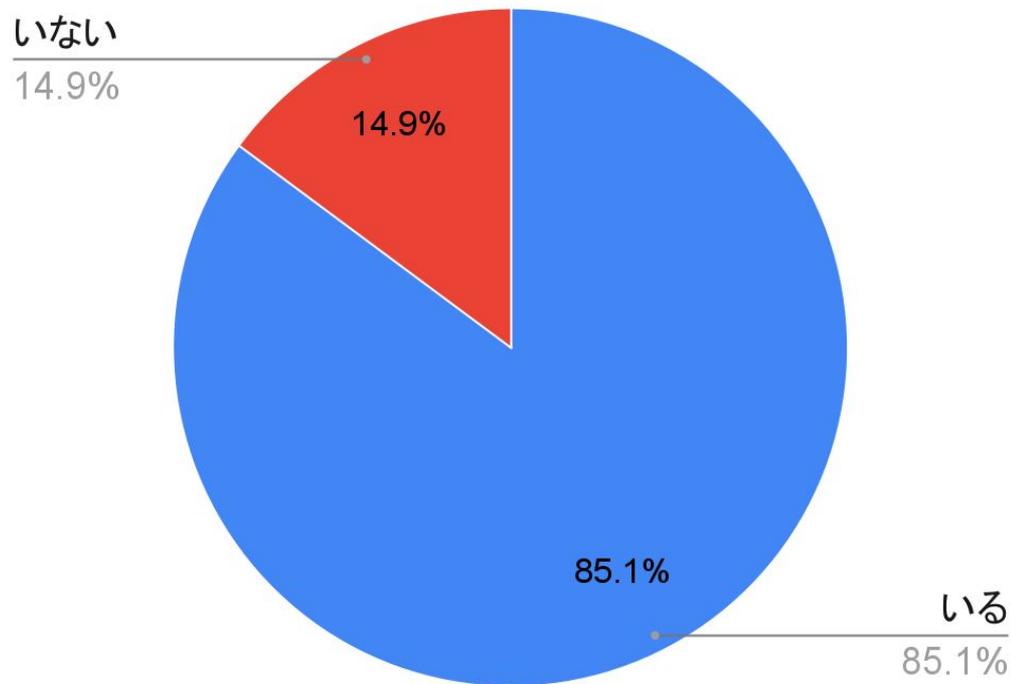
問:自身についてどのくらいあてはまるか。



- 自己肯定感につながる各設問について、「あてはまる」の割合が特に高いのは「自分が困ったときには、助け
てくれる人がいる」(86.1%)。一方で、「自分には様々な可能性があると思う」(56.1%)、「今の自分が好き
だ」(58.8%)については、「あてはまる」の割合は6割未満である。

(3)－① 相談先の有無

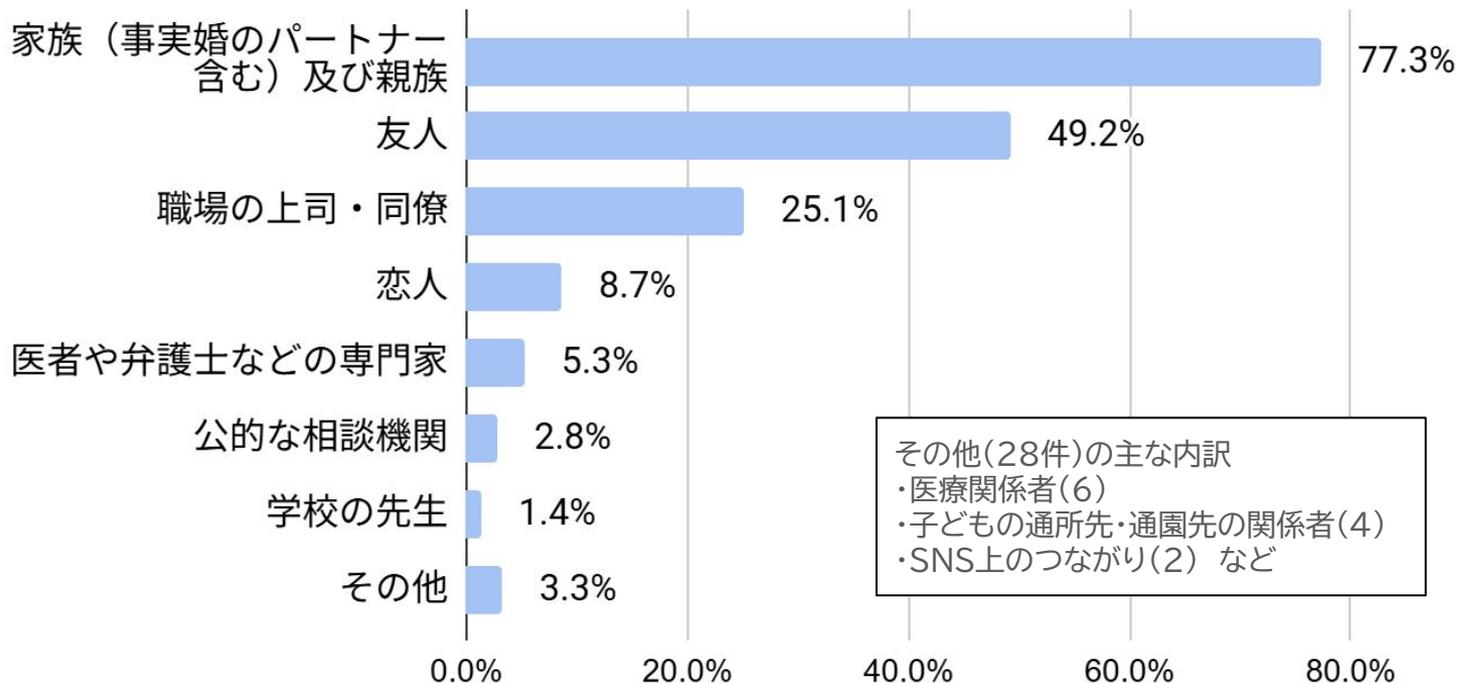
問 相談できる人はいるか



- 85.1%が相談できる人が「いる」と答えている一方で、14.9%が相談できる人が「いない」と答えている。

(3)－② 誰に相談するか

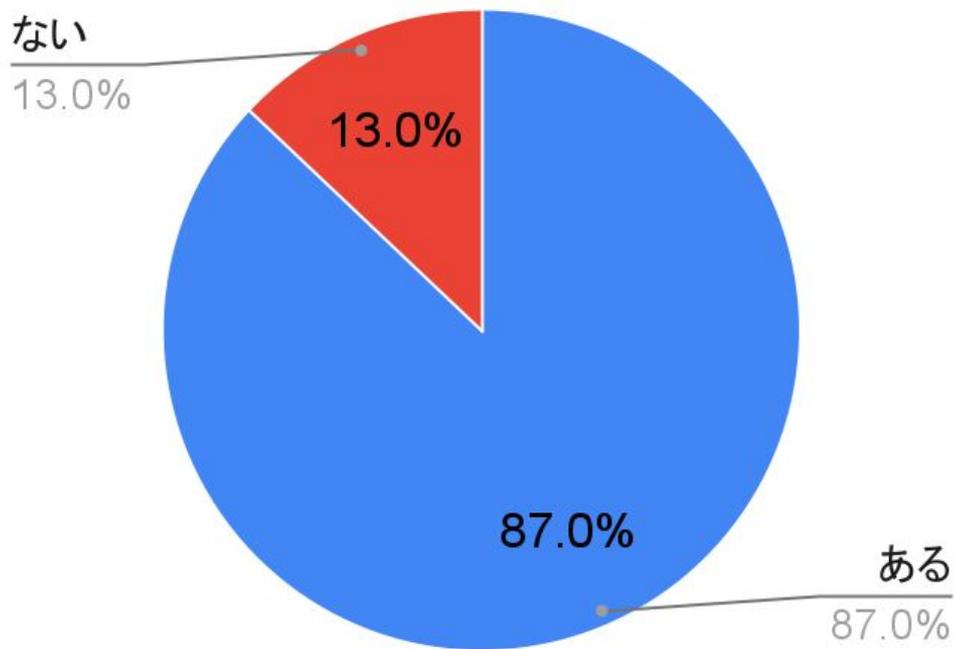
問 誰に相談するか(複数回答可)



- 相談できる人が「いる」と答えた方の相談先は、「家族」(77.3%)、「友人」(49.2%)、「職場の上司・同僚」(25.1%)の順に多い。

(4)－① 家族以外の人とのつながり

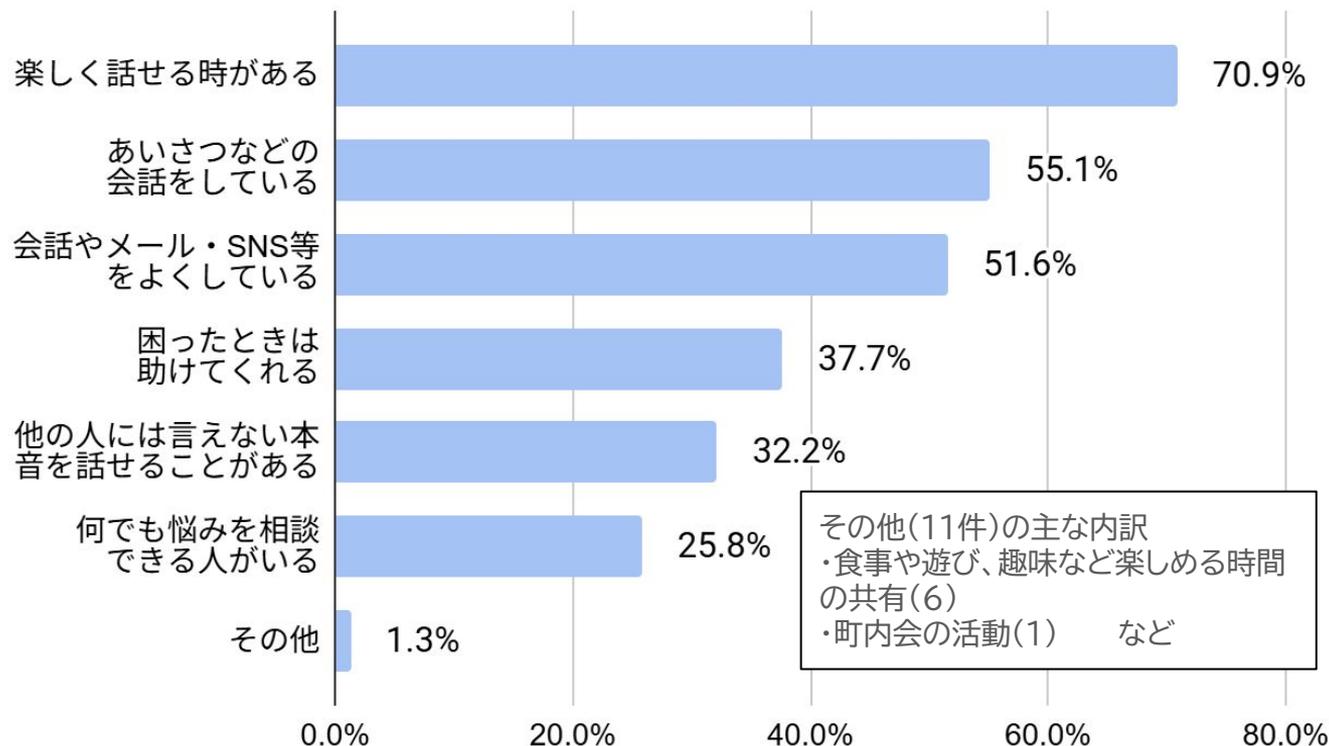
問 家族以外のとつながりがあるか



- 87.0%が家族以外とのつながりが「ある」と答えている一方で、13.0%が家族以外とのつながりが「ない」と答えている。

(4)－② 家族以外の人とのつながり方

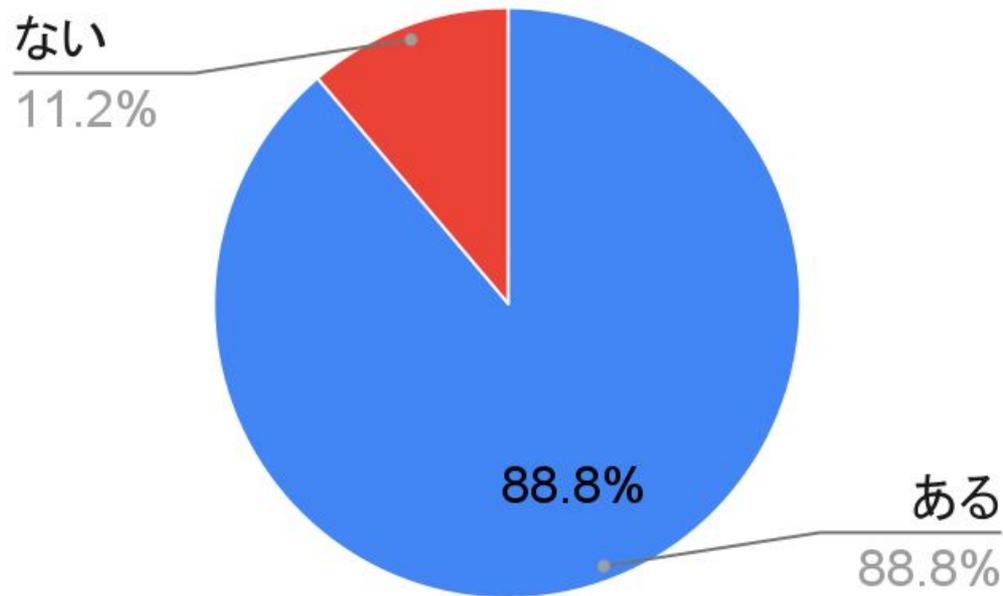
問 つながりはどのようなものか(複数回答可)



- 家族以外とのつながりが「ある」と答えた方々にどういったつながりがあるか聞いたところ、「楽しく話せる時がある」(70.9%)、「あいさつなどの会話をしている」(55.1%)、「会話やメール・SNS等をよくしている」(51.6%)といったつながり方がみられた。

(5)－① 居場所の有無

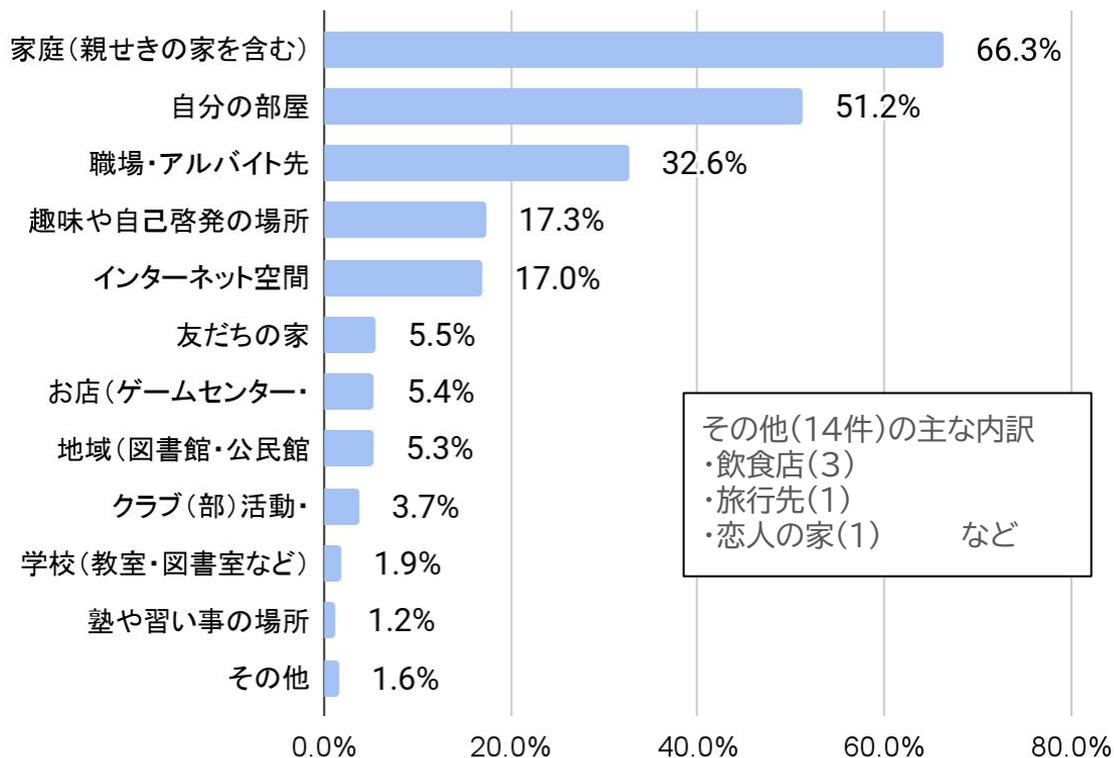
問 居場所はあるか



- 88.8%が居場所が「ある」と答えている一方で、11.2%が居場所が「ない」と答えている。

(5)－② 居場所の種類

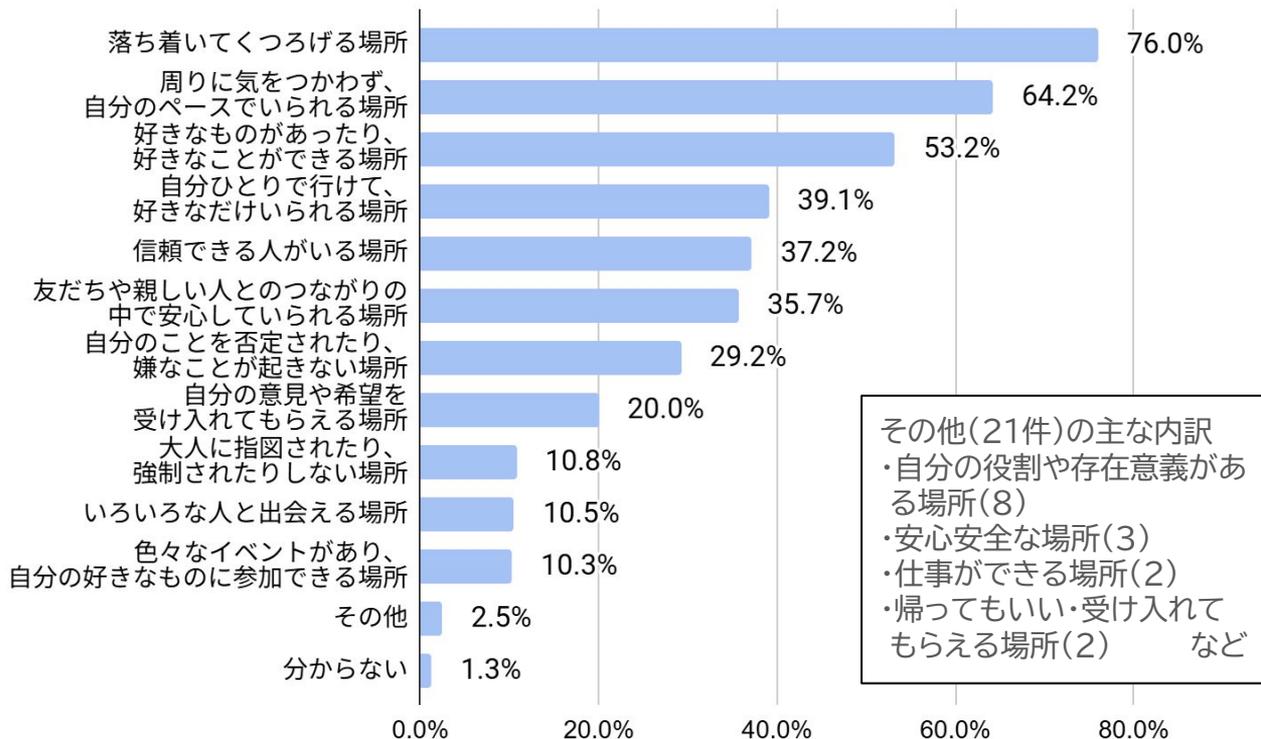
問 「居場所」は次のうちどこか(複数回答可)



- 居場所が「ある」と答えた方にあなたの居場所がどこか聞いたところ、「家庭」(66.3%)が最も多く、次いで「自分の部屋」(51.2%)、「職場・アルバイト先」(32.6%)となっている。

(5)－③ 居場所とは何か

問 「居場所」とはどんなところか(複数回答可)



- あなたにとっての居場所とはどんなところかを聞いたところ、「落ち着いてくつろげる場所」(76.0%)が最も多く、次いで「周りに気をつかわず、自分のペースでいられる場所」(64.2%)、「好きなものがあったり、好きなことができる場所」(53.2%)となっている。

※居場所の有無と家族以外とのつながりの有無の関係

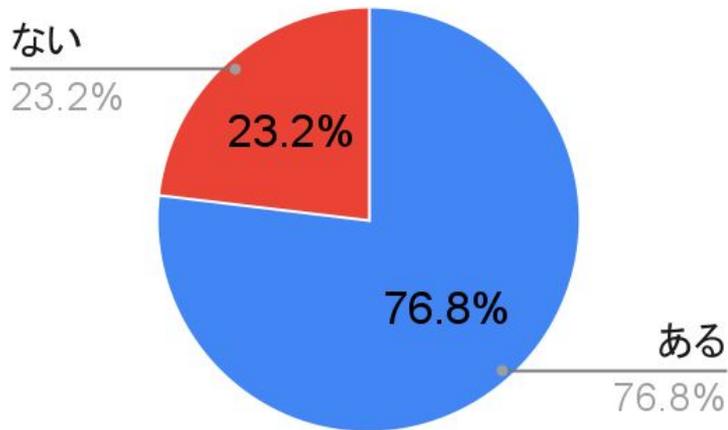
Q3: 家族以外とのつながりの有無

上段:実数 下段:割合	サンプル数	ある	ない
Q4:居場所の有無			
全体	855	87.0% 744	13.0% 111
ある	759	94.4% 702	51.4% 57
ない	96	5.6% 42	48.6% 54

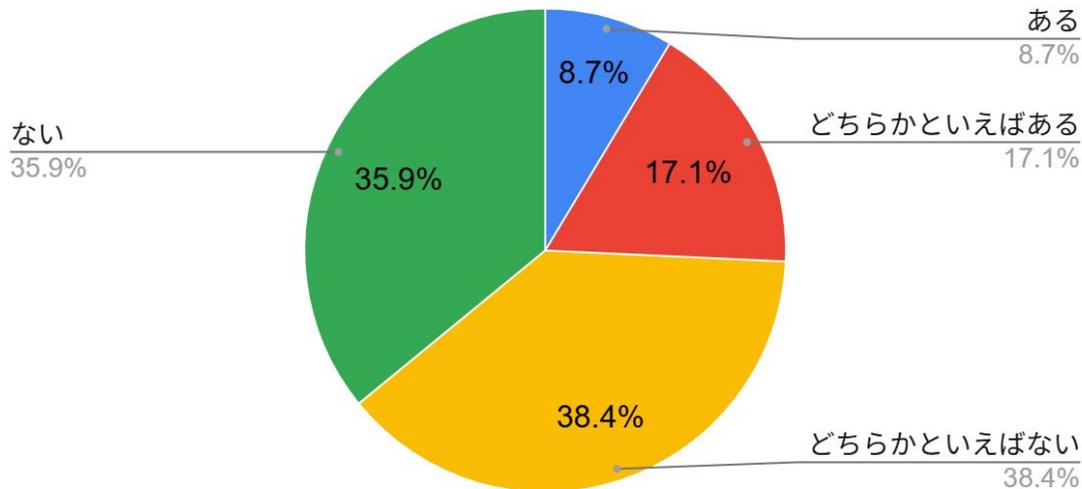
- 家族以外とのつながりが「ある」と答えた方のうち、94.4%が居場所が「ある」と回答しており、家族以外とのつながりと居場所の認識に強い相関が見られる。
- 家族以外とのつながりが「ない」と答えた方のうち、48.6%が居場所が「ない」と回答している。これは、「家族以外とのつながりがある」層の「居場所がない」割合(5.6%)と比較して非常に高く、家族以外とのつながりの有無が居場所の認識に大きく影響していることが分かる。
- この結果から、家族以外の人間関係を持つことが、個人が「居場所」を認識する上で非常に重要な要素となっていることが示唆される。

(6)－① 札幌市や行政機関への意見表明の有無と機会の有無

問 札幌市や行政機関に対して思うことや伝えたい意見はあるか



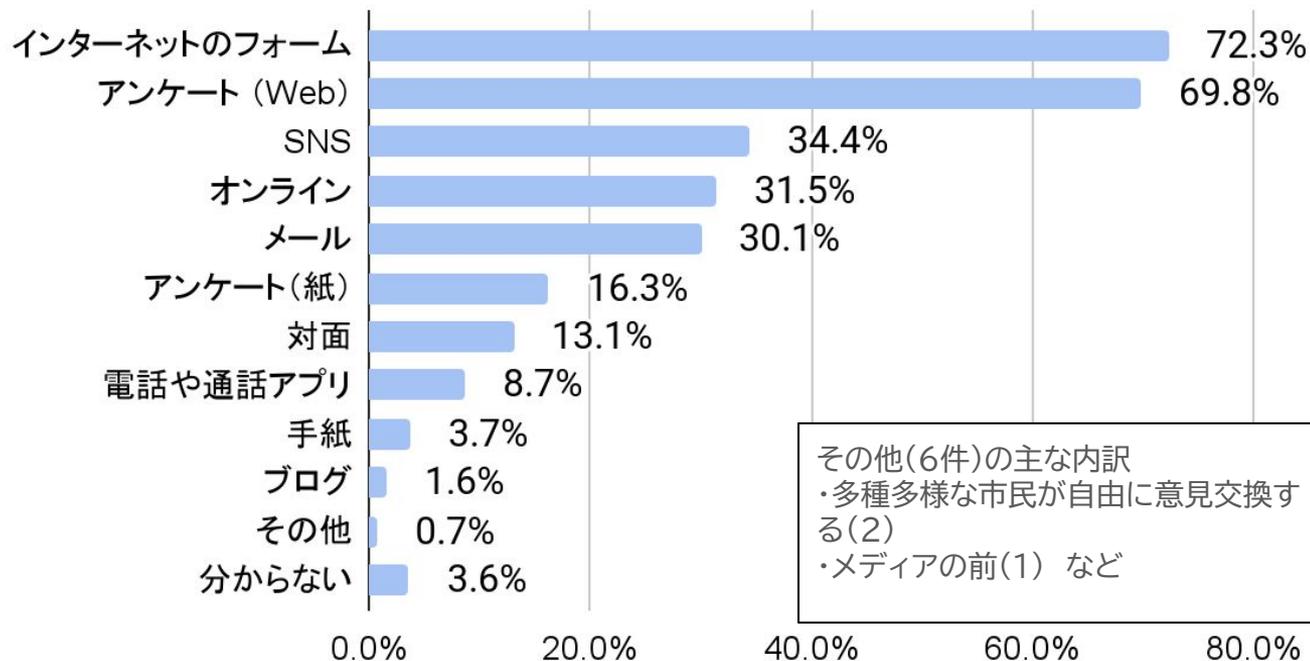
問 札幌市や行政機関に対して思うことや意見を伝える機会はあるか



- 札幌市や行政機関に思うことや伝えたい意見が「ある」と答えた方が76.8%と多い一方で、意見を伝える機会が「ある」「どちらかといえばある」と答えた方は25.8%と少なくなっている。

(6)－② 札幌市や行政機関への意見表明しやすい手段

問 どのような手段が札幌市や行政機関に意見表明しやすいか(複数回答可)



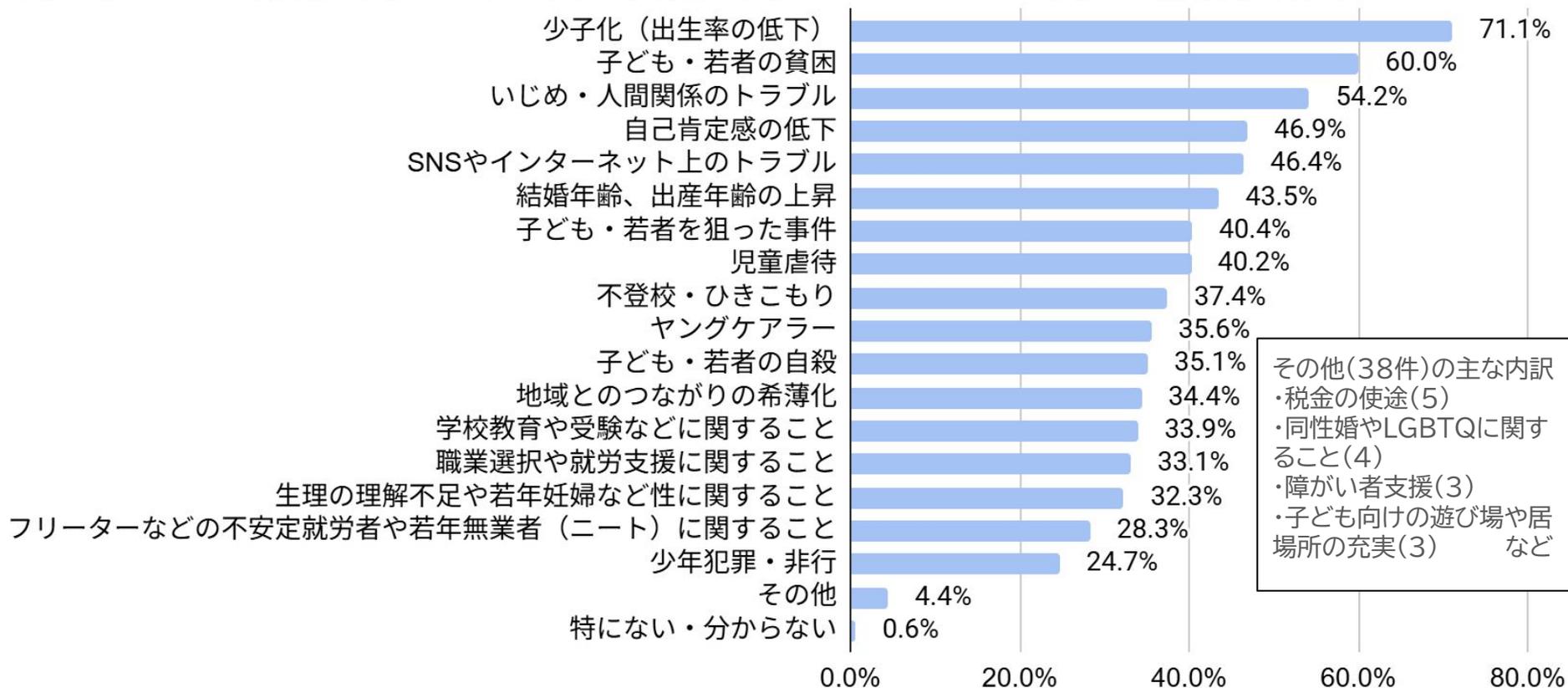
- 意見表明の手段について、「インターネットのフォーム」(72.3%)、「アンケート(Web)」(69.8%)、「SNS」(34.4%)、「オンライン」(31.5%)、「メール」(30.1%)といった、インターネット等を活用した手段の割合が高くなっている。

(7) 関心のある社会的課題

問 子どもや若者に関する社会的な課題で関心のあるものは何か(複数回答可)

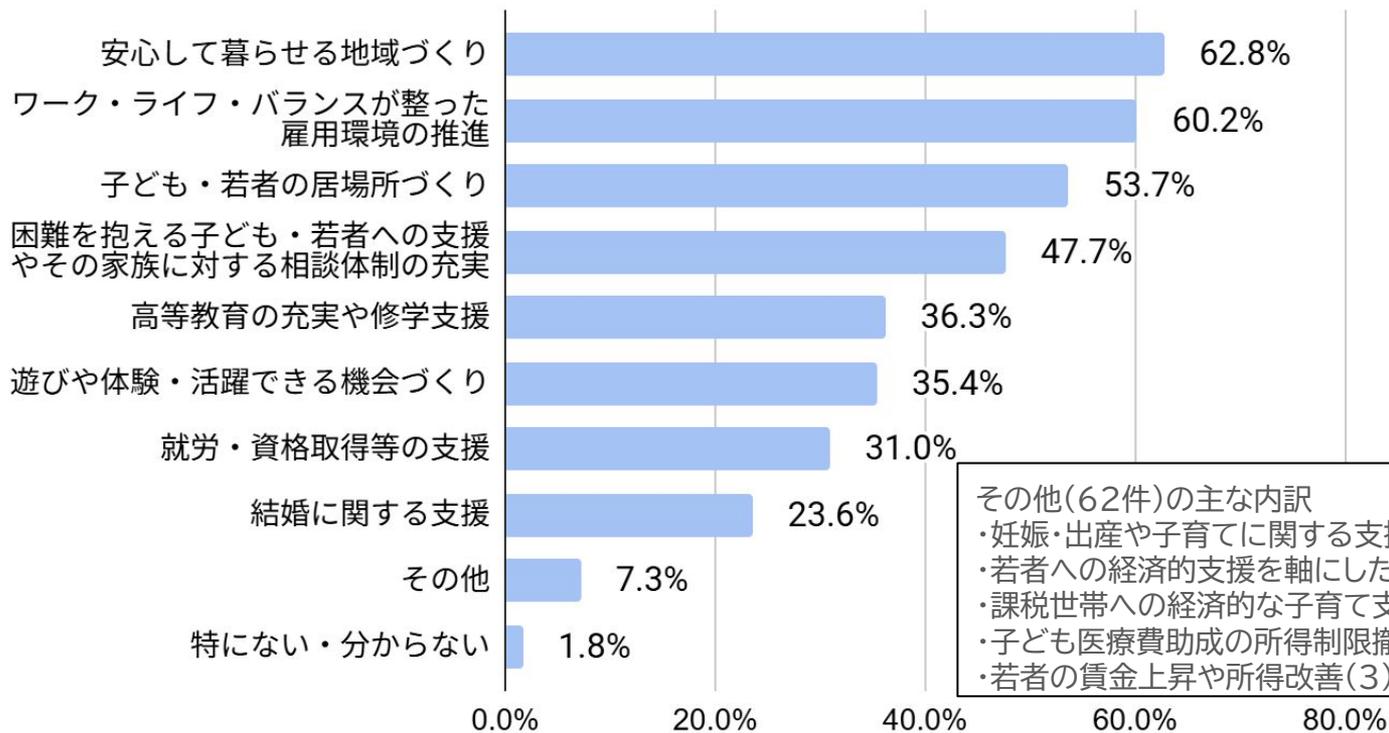
- 結果のグラフは次ページに掲載
- 子ども・若者に関する社会的な課題について、「少子化(出生率の低下)」が7割を超えており、関心の高さがうかがえる。また、「いじめ・人間関係のトラブル」「自己肯定感の低下」「SNSやインターネット上のトラブル」といった、実生活やネット上での対人関係を起因としたトラブルや、自己肯定感の低下が問題と捉えられている状況がうかがえる。

問 子どもや若者に関する社会的な課題で関心のあるものは何か（複数回答可）



(8) 子どもや若者のために札幌市にしてほしい取組

問 子どもや若者のために札幌市にしてほしい取組は何か(複数回答可)



- 5割以上の方が札幌市にしてほしいと回答した取組は、「安心して暮らせる地域づくり」(62.8%)、「ワーク・ライフ・バランスが整った雇用環境の推進」(60.2%)、「子ども・若者の居場所づくり」(53.7%)となってい

その他(62件)の主な内訳

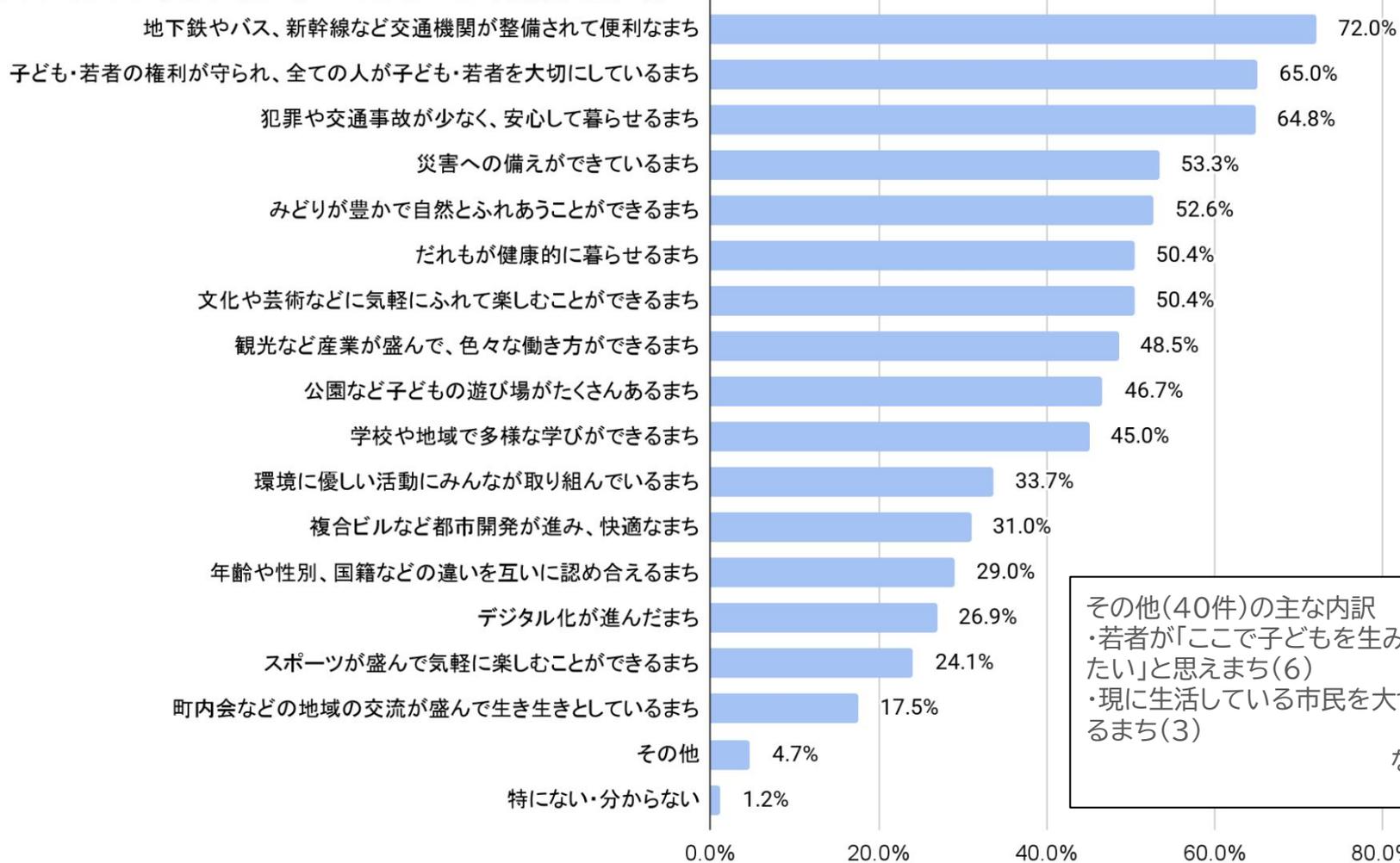
- ・妊娠・出産や子育てに関する支援(11)
- ・若者への経済的支援を軸にした少子化対策(5)
- ・課税世帯への経済的な子育て支援の充実(5)
- ・子ども医療費助成の所得制限撤廃(4)
- ・若者の賃金上昇や所得改善(3) など

(9) 理想の札幌市の姿

問 札幌市がどのようなまちになってほしいか(複数回答可)

- 結果のグラフは次ページに掲載
- 札幌市がどのようなまちになってほしいかについて、「地下鉄やバス、新幹線など交通機関が整備されて便利なまち」(72.0%)、「子ども・若者の権利が守られ、全ての人が子ども・若者を大切にしているまち」(65.0%)、「犯罪や交通事故が少なく、安心して暮らせるまち」(64.8%)が続いており、公共交通機関等のハード面の整備や犯罪等を軽減させる取組を推進し、便利で安心して暮らせるまちにすることに加え、子ども・若者の権利が尊重されるまちづくりが求められている。

問 札幌市にどのようなまちになってほしいか(複数回答可)



その他(40件)の主な内訳
 ・若者が「ここで子どもを生み育てたい」と思えまち(6)
 ・現に生活している市民を大切にす
 るまち(3)

など